

自然との共生について（回答者 365 人）

【調査の目的】

県では、**人と自然が共生する社会（※1）**づくりを進めています。そこで、行政だけではなく、県民の皆さんや、企業、NPO・ボランティア等の多様な主体によって**生物多様性（※2）**の保全と持続可能な利用に関する施策を推進するため、平成25年3月に「福岡県生物多様性戦略」を策定しました。この福岡県生物多様性戦略を改定し、令和4年3月に「福岡県生物多様性戦略2022-2026」を策定しました。

つきましては、県民の皆さんに、県の生物多様性保全の取組がどこまで浸透しているか、また、生物多様性保全についての考え方をお聴きし、戦略推進の参考資料とさせていただきます。

※1 人と自然が共生する社会（自然共生社会）とは

人と自然（生きもの）が共に生き、自然からの恵みを持続的に受け続けることができる社会

※2 生物多様性とは

私たちの住む世界には、森林、草原、川、海など多様な自然があり、その中で、哺乳類、鳥、昆虫、魚など多種多様な生きものが、「食べる－食べられる」の関係をはじめ、様々な「つながり」を持って生きている状態

（環境部自然環境課）

問 1

「生物多様性」の認知度

項目	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	合計	割合
① 内容をよく知っている	7	8	5	6	7	7	3	43	11.8%
② 内容をある程度知っている	3	15	12	18	13	15	10	86	23.6%
③ 言葉を聞いたことがあり、内容をイメージできる	2	17	24	24	16	16	7	106	29.0%
④ 言葉を聞いたことはあるが、内容をイメージできない	0	8	13	20	7	13	4	65	17.8%
⑤ 全く知らない	1	6	17	10	16	9	6	65	17.8%

※R3 年度までは「③言葉を聞いたことがある」「④全く知らない」としていたが、R4 年度から設問を上記のとおり変更し、認知度は①～②の合計から①～③の合計と整理した。

<直近 4 年間の福岡県における生物多様性の認知度の推移>

項目	2019(R1)年度		2020(R2)年度		2021(R3)年度		2022(R4)年度	
	人	割合	人	%	人	%	人	割合
① 内容をよく知っている	34	9.7%	37	10.1%	29	8.1%	43	11.8%
② 内容をある程度知っている	98	27.8%	106	28.9%	104	28.9%	86	23.6%
③ 言葉を聞いたことがある(R3年度まで)	121	34.4%	129	35.1%	141	39.1%		
③ 言葉を聞いたことがあり、内容をイメージできる							106	29.0%
④ 言葉を聞いたことはあるが、内容をイメージできない							65	17.8%
⑤ 全く知らない	99	28.1%	95	25.9%	86	23.9%	65	17.8%
合計	352	100.0%	367	100.0%	360	100.0%	365	100.0%

<参考>

県政モニターアンケートによる生物多様性認知度の推移

(H23は生物多様性戦略策定時の数値)

調査年度	認知度合計	(内訳)		
		①	②	③
平成23年	33.0%	7.5%	25.5%	
平成26年	39.3%	6.2%	33.1%	
平成27年	43.4%	11.5%	31.9%	
平成28年	39.5%	11.8%	27.7%	
平成29年	38.1%	11.2%	26.9%	
平成30年	32.0%	9.9%	22.1%	
令和元年	37.5%	9.7%	27.8%	
令和2年	39.0%	10.1%	28.9%	
令和3年	37.0%	8.1%	28.9%	
令和4年	64.4%	11.8%	23.6%	29.0%

問2

生物多様性に配慮した行動として行っていること（2つまで回答可）

項目	件数	割合
旬のもの、地元のものを選んで購入する	224	34.6%
節電やアイドリングストップなど地球温暖化対策に取り組む	133	20.6%
生きものを最後まで責任を持って育てる	108	16.7%
身近な生きものを観察したり、外に出て自然と積極的にふれあう	82	12.7%
自然や生きものについて、家族や友人と話し合う	31	4.8%
生物多様性や環境に配慮している企業の商品やサービスを優先的に選ぶ	26	4.0%
生物多様性に関わる観察・調査・保全・再生などの活動に参加する	20	3.1%
エコツアー(ガイドによる自然体験)に参加する	14	2.2%
特に行いたいとは思わない	7	1.1%
その他	1	0.2%

<特に行いたいとは思わないを選んだ理由>

- ・「生物多様性」という言葉だけではその意味がまったく理解できない。これが普通の日本語ですかね、というぐらいの感じ。
- ・倫理的に悪いことをしようとは思いませんが、特に多様性に危機感を感じていません。
- ・関心がない
- ・よくわからないし、すすんで行動しようとは思わない 等

<その他の回答>

- ・難しくて意味がわからない。

問3

自然共生社会の実現を目指していく上で、県が重点的に取り組むべきこと
(3つまで回答可)

項目	件数	割合
身近な野生生物(ホタル、ツバメなど)や里地里山といった身近な自然の保全	243	26.1%
希少な野生動植物やその生息地の保全・保護	135	14.5%
環境に配慮した公共工事の推進	134	14.4%
生物多様性の保全に取り組む民間団体への支援	114	12.2%
環境教育の充実	109	11.7%
野生鳥獣(シカ、イノシシなど)や外来生物による被害の防止	72	7.7%
生物多様性に関する各種情報の発信・提供	57	6.1%
生物多様性保全の取組を進めるための科学的なデータの集積や調査・研究	50	5.4%
その他	1	0.1%
分からない	17	1.8%

※その他の回答は無記入だった

問4

生物多様性の保全等について、地域での自主的な取組を推進するために、県はどのようなことを支援すればよいか。

項目	件数	割合
地域の活動に対して資金等を助成する	113	31.0%
誰でも取り組めるような生物多様性保全活動のためのリーフレットを作成し、周知・配布する	85	23.3%
市町村やNPO・事業者等に対して生物多様性保全活動への助言や技術指導を行う	80	21.9%
生物多様性に精通した人材を育成するための研修会を開催する	41	11.2%
地域の活動に対して生物多様性に精通した人材を紹介・派遣する	37	10.1%
その他	9	2.5%

<その他の回答>

- ・影響力・継続性・教育効果等を考慮して助成事業を決めるコンペを行う。
- ・直方市にある「遠賀川水辺館」の活動や取り組みや館内の設備（展示？）のようなものがとても生物多様性や自然共生社会を地域に根差しながら具現化できていると思います。もっと他の地域や自治体にもこのような施設・人材・活動内容があつてほしいと感じます。
- ・官民共同のプロジェクトを実施してほしい。
- ・分からない
- ・大学等研究機関との連携。
- ・詳細を理解できない為良案が思いつかない。
- ・何が必要かあまりわからない。
- ・生物多様性保全活動を行う団体を支援する「宣言」をしたり「規制」を設ける。団体が活発に活動できるよう団体同士や企業とマッチングを行う。
- ・保全は誰でもが携われないので上記「資金等の助成」や「市町村やNPO・事業者等に対する助言、技術指導」とも思えるがお金が絡むとややこしくなるので止めたが「市町村やNPO・事業者等に対する助言、技術指導」になると誰が誰にどこにと着地点が見えない。「リーフレットの作成、周知・配布」に近いが身近な生物動物が苦手な場合、周知されても無理。関心が沸かない。よって意見が浮かばない。

問5

地域の自然環境に大きな影響を与え、生物多様性を脅かすおそれのある侵略的外来種の中で、優先的に対策が必要な種（2つまで選択可）

項目	件数	割合
セアカゴケグモ	162	27.4%
オオクチバス(通称:ブラックバス)	124	20.9%
アライグマ	89	15.0%
アカミミガメ(通称:ミドリガメ)	88	14.8%
アメリカザリガニ	64	10.8%
水生植物(ブラジルチドメグサ、ナガエツルノゲイトウ 等)	26	4.4%
オオキンケイギク	9	1.5%
その他	31	5.2%

<その他の回答>

- ・自宅周辺で、上記の生物が生態系に影響を与えているとの認識が無い
- ・イノシシ以外、聞いたことがない。
- ・周囲では見聞きするものはない。サルの農作物への被害はTV で見た。
- ・セイタカアワダチソウがかなり目立っていると思います。
- ・どれが特に優先的に対処すべきなどとは考えていません。
- ・自分の生活にあまり影響がないので、わからない（2名）
- ・この問題を身近な問題として捉えていなかった為、生物の名前が出てこない。
- ・穴熊です。育てた西瓜やとうもろこしが全滅しました。
- ・住んでいる周辺では、猪やハクビシンによる被害の方を耳にします。上にあげられた生物は、耳にはしますが、身近にいるとは思いません。しいて言うなら、近くの池にブラックバスがいるとは聞いたことがありますが、なにかしらの被害がでているのでしょうか？わかりません。
- ・地元で聞くのは、サルとイノシシ。
- ・自分の畑で今年被害にあったのはテン。テンが畑の数か所を掘って回っていた。植えたサツマイモの種イモを掘り返して食べてしまった。
- ・イノシシとサル
- ・イノシシ、カラス
- ・農作物の猪の被害に毎年悩まされている。 等

問6

これまでの設問以外での御意見

※86件の御意見をいただきましたので、御意見の趣旨から下記区分に分けて掲載します。

環境問題	18件
外来生物（特定外来生物含む）関係	18件
普及啓発	17件
有害鳥獣・ワンヘルス関係	11件
ペット・犬猫関係	9件
その他（上記に区分できないもの）	13件

（環境問題 18件）

- ・ゴミのポイ捨てなど。まだまだ見ることが多くあります。もっと罰を厳しくしては、どうでしょうか。カメラ設置→罰金など。
- ・私の住んでいる北九州市小倉北区では、近年、紫川下流域の河原や土手の整備が進み、遊歩道ができ、親水公園として美しく整備されました。しかし、反面、これまで存在した河原がなくなり、土手の植物やそこに住む野鳥、魚を餌にするトンビなどがめっきり減少しました。私は毎日、このあたりを散歩しているので、この変化に以前から気づいていました。紫川の下流域の整備計画がどのように進められたのか情報がありませんし、野生生物に対する環境影響調査が行われたのかもわかりません。情報がないのです。紫川の親水公園は、自然との共生のように見えますが、生物多様性の視点に欠けているように思えます。福岡県として、市町村の開発行為にも目配りをしてもらいたいのです。
- ・森林面積は減るばかりです。大きな規模で森林というか、山を増やして欲しいと思います。ゴルフ場を買い取って山に戻す、山を切り開いて、街化、工場化した土地を買い取って山に戻す。このくらいのことをやらなくては、バランスが崩れたままの共生はあり得ません。
- ・里山の保全是、第一次産業を守るためにも必要です。また、山、川、海の循環する自然環境を保全することは、すなわち、水、食料の確保に繋がり、国の食料安全保障にも繋がる取り組みです。山、水源地、農地などを外資に買い漁られないよう、県でも規制や監視を強化し、国土の保全に努めてほしい。
- ・地球を守っていくためにも必要なことだと思います。ただ、取り組まなくても人の生活の上では困らないことが多いので、なかなか難しいと思います。もとより「福岡県生物多様性戦略 2022-2026」というものがあることを、私は知りませんでした。まずは取り組みやすいように「太陽光発電」「風力発電」に取り組んでいる家庭や企業に補助金を出してはどうでしょうか。補助金は設置の時だけではなく、継続的に毎年2万とか、取り組むことが利益になるというレベルからでもいいと思います。また、学校との連携も進めてはどうでしょうか。学校で環境教育は行われていますが、一般的な話になっているので、福岡県の実態などを副読本にして授業で使うようにすれば、意味のある環境教育

になると思います。もちろん市町村の教育委員会との連携も進めることも必要です。

- ・人間が自然破壊をしていることにもっともっと目を向け注意喚起をしていくことも大切だと思う。安いから買う、過剰に買う。人間によってどんどん自然が壊され動物達は食料を求め止むを得ず我々に危害を加えるようにもなっているのではないか。高くても長く使えるものを必要な分だけその考えが広がっていくことが自然との共生にも繋がると考えます。
- ・放置されている小川を自然の状態が維持できるよう整備して虫など生育できる環境を取り戻す施策をお願いしたい。地域でのボランティアを募り活用してもいいのではないか。
- ・農薬や除草剤の散布が気になります。多様な微生物があつての健康な自然ではないかと感じます。除草剤は子供たちの遊ぶ公園にもまかれています。安全に衛生的に子供たちが遊ぶための管理の一環だと理解していますが、除草剤のまかれた場所で裸足で遊んだり土や草、虫を触ることにとっても抵抗があります。過剰な表現になってしまい申し訳ありません。
- ・環境被害等、具体的に取り上げて現状を情報展開すべきだと思います。住んでるエリアでかなり環境に差もあるので、具体的な被害状況を把握するのは難しく行政による取りまとめでの情報伝達が必要だと思います。
- ・自然がやみくもに破壊されない様、罰則強化などの対策を講じて、共生社会の持続発展を期待しています。
- ・近くの公園に夏休みなどの長期休みに入るとお菓子等のゴミが大量ポイ捨てされます。地域のどなたかがフェンスに、袋をかけてくださり、その袋が貯まるまではその袋にゴミを捨てているようでしたが一杯になるとその辺にゴミが散らばる始末でした。その件で志免町の役場に問い合わせたことがあり、その時は役場の方が清掃に来てくださりました。ゴミ箱の設置は家庭ゴミの持ち込みの可能性があり否決されました。そのかわりゴミ捨て禁止の看板をつけてくださいました。しかし効果も束の間いまではまたポイ捨てがされてます。近くに川があるので川に捨てなくても風で飛ばされて川に入り海に流され環境汚染につながります。海にゴミを捨ててないけど間接的に繋がっていることをもっと公園利用者に分かってもらいたいです。
- ・地球環境への影響という意味では農薬も気になります人間に悪いだけでなく、生態系にも影響します。最近、日本の農薬や添加物の基準が世界と比べて何倍も規制が緩いため、国産の方が危ないとネットの一部で話題になっています。原生の緑を残すのも大事なかなと
- ・自然を破壊しながら生きている人間は自然に感謝し守らないといけないと思うので一人ひとりがきちんと考え行動すると良いと思う
- ・異常気象を含め、一人一人が環境に配慮しつつ、自然との共生について真剣に考えていかなければならない時期に来ているのではないのでしょうか？
- ・外来種が影響を与えてるといのは、実際あまりわからないが、自然を破壊しつつあるのは、ニュース等でしったのですが、動物以外に植物とかもあるのです、そういう情報をもっと知らせるべきだと思う。動物捕獲したら、少しのお金を渡したり、この花見たら、抜いて処分をお願いしても良いと思う。あと、自然というわりに福岡市は緑が少なすぎ

るし、建物もすぐに取り壊して建て直す気がする。

- 地球温暖化に伴い、大雨での土砂災害で地域の環境は大きく変化していきます。例えば土砂崩れに対し、コンクリートで固めることによりもともとそこにあった植物や動物などにも影響はあると思います。人が住みやすく安全にというのはわかりますが、外来生物だけでなく、人もどうすれば生物多様性の中で気持ちよく生活できるのかも考える必要があるのではないのでしょうか。
- 詳しくは分からないけれど、人間が団塊の世代で繁殖して、動物が住んでいる山を切り開いたり、都合よく川の流れを変えたり、ゴミを捨てたり、農薬使って回ったり、買えない動物を山や川に捨てたり（逃がしたり）…。それで外来種による被害が起きたり、野生の動物が食べ物なくて山から下りてきたりという今の状況になっていると思う。今は、これまでの人間の生活の仕方に間違いがあったため、ルールを変更して取り組み、少子化になっている世の中として高い視点で見れば、人間の大繁殖による自然界への被害が抑えられたのではないのでしょうか。それは自然災害多発によって世界規模で起きているのかもしれない。そうなってくると、教育面としては少子化で子供の人数は減ってきているので、教育は行き届きやすく、子どもの特性を利用して、親世代には間接的に教育が行き届く可能性があります。高齢化で高齢者人数は多い、役割を損失している、老後の収入は年金頼り。この人材を活用できればいいのですが…人数が多かっただけに教育や法律での目が行き届きにくかった部分も多くあり、本人の努力や能力に関わらない成功体験が多いので…統率が難しい。下手にゴミ拾いをしてもらおうものなら、ケガして保険の支払いに追われるため民間企業や民間組織はこの不景気ではそのような活動を行うのは腰が重いと思う。要支援程度の人なら、通所サービスシステムを利用して、ルールを守る・スタッフの指示を聞くということが比較的出来ている。ある程度、自分の体力や認知の低下も意識出来ている人も多い。逆に元気な人は、まだ若い時の感覚で、統率が行き届きにくい傾向があるような気がする。水中の生き物なら魚釣りとかザリガニ釣りとかのイベントは楽しそう。山辺・水辺は不慣れなので、どのエリアが安全（毒蛇とかクマとかが出る）とか知らないです。そもそもそういう生き物が多いエリアを良く知らない。さすがにイノシシとかは取れないけど、そういう魚やザリガニとり等のイベントなら興味がある。身近でダムの水を抜いて魚とりイベントがたまにある。行きたいけどたまたま予定が合わなくて行けていない。何日間か続けてもらえると嬉しいけれど、人件費とかでそういうわけにも出来ないのでしょう。
- 10年前までは裏の川にも梅雨まえにはいっぱいいました。ここ2～3年になると多くて5匹とかなり少なくなりました。やはり自然環境の破壊が進んでいるのかと危惧されます。川を汚さない環境作りが大切だとひしひし思います。

(外来生物 (特定外来生物含む) 関係 18 件)

- 直接害がないものは、共生していきたいと思う。
- ジャンボタニシは、田んぼにわんさかいて、在来生物を見なくなった。あれはいつ、どこから来たのだろうか？
- 行政でもっと取り組んでほしい。例えば、外来種を一匹いくらで買い取るみたい事をし

てくれれば、もっと関心、行動できると思う。

- WWF ジャパンとの連携等、専門家の意見を大切にして欲しいと思います。外来種の被害は、鳥獣だけでなく、虫(ヒアリ等)も問題です。外来種に関してはほとんどの場合人が原因であるので、教育を充実し、知識を幅広い世代の人(少なくとも小中学生)に正しい情報を知ってもらう機会をつくって頂きたい。
- 外来種が多いですね。外来種を排除してほしいわけではありません。
- 近年メディアで外来種の生物を駆除する番組を放送するなどして、外来種へ否定的な風潮がありますが「生物多様性」とは在来種も外来種も適切に共存できるのが理想ではないでしょうか。人間の世界では LGBT、男女や国籍の差別廃止などを掲げている一方、生物の世界は鎖国状態を求めているように感じます。外来種を悪者扱いして単純に駆除するのではなく、技術や知恵を使ってビジネスの観点も含めて上手く利用できる方法を見出せるとベターだと考えます(例 ブラックバスやアメリカザリガニが美味になる調理法や飼育法の開発。ブラックバスの釣りを有料化等。バス釣りの有料化は複数の他県で実施済み)
- 問5にもあるが、オオキンケイギクの大繁殖が止まらない。「特定外来生物」であることを知らない担当者が市町村の窓口担当であったりして、その害を訴えても全く動きがない。罰則まである対象物にもかかわらず、無関心なことはありえない。「見つけた場合には行政に相談」となっているにもかかわらず、いざ相談しても市町村によって対応に濃淡があるのは問題と感じます。県全体の問題として市町村に対しても指導力を発揮できないものか。
- 外来種の規制を強く求めます。
- ブラックバスなどの外来種はリリースせずに持ち帰る方が良いと思います。YouTube を見ているとアライグマを飼っている人がいるようですが、ペットショップなども規制すべきだと思います。
- 外来種は駆除ではなく、共存していく事が大切だと思います。マイナスだけではなく、プラスに転換していける様にしていく。廃棄ではなく、料理に使うなど。(食べられるモノに限る)
- テレビで外来種は危険だというのはよく見るが、具体的に自分が取り組んでいることはない。何ができるかを考えたい。
- 具体的な名前は知らないのですが、日本ミツバチを攻撃する外来種の蜂。
- ツマアカスズメバチ
- アリやハチなど、最近報道でも外来種が福岡に来ているというものをよく目にするようになりました。在来種を守るためにも駆除が必要だと思っています。
- 外来種は強く取り締まるべきとは思いますが。しかしながら個人で何かしようとは思いません。(危機感がないため)
- ジャンボタニシの問題も早く手を打たないと大変な事になると思います。
- 田んぼの壁のピンク色の卵(タニシ)は、いつ見ても気持ち悪いです。また、その道端に卵を潰した痕跡があり、見た目がよろしくありません。ミドリガメは、多いです。川にたくさんいます。しかも、大きく成長している。うっかり車で引いたこともあります。

そして、最近は大い蜂を見かけます。早期に蜂の巣を見つけることが大事です。私の家の周りには田んぼの風景が広がる良いところだったのですが、数年前から住宅（アパート）が立ち、風通りが悪くなりました。甘木山も 墓石が 占めてしまっているし。自分たちの利益ばかりでなく、住んでる人の目線も視野にいれてほしいと思います。

- ・外来生物をすべて排除することは難しいと思う。在来種の保全に力を入れてみては？昔より害獣被害が多く、山や土地の手入れをする人材がいないのが原因と考える。人材確保が課題と考える

(普及啓発 17 件)

- ・生物多様性の保全は県民一人一人の意識が大切である。そのために行政は専門・研究機関に協力を仰ぎ集めたボランティアを教育してもらい知識を得たボランティアに環境の保全、データの収集を行うようにしてはどうだろうか？集めたデータは専門・研究機関に渡して新たな研究に活用してもらい、新たな知見を保護に活かすしくみを作ることができれば良いのではないか？知識を得たボランティアが新しいボランティアの育成に関わることができればボランティアのスキルアップ、ボランティア同士の繋がりができて良いと思う。そのために必要な部分に行政からの継続的な助成が必要と思う。
- ・特に植物については、外来種かどうかを意識して勉強していないと分からない。新聞や TV などを使って広く広報することが重要だと考える。
- ・外来種が生態系に影響を与えている事例をもっと具体的に PR して、除去する取り組みを行っていることを広く伝えて欲しい。現状では身近に切迫感を感じていない。
- ・自然との共生と快適な生活を両立するのは難しいことなので、自分たちも自然の一部だと理解しなければいけない。子供の時から本当の意味で自然と触れ合い、恐ろしさと共に素晴らしさを教えていくことが必要だと思う。
- ・池の水全部抜くのように、人海戦術で取り組む企画があれば是非ボランティア参加したい。
- ・自然との共生がなぜ必要なのか？どうしてするべきなのか？が 1 次産業従事者以外ではなかなか気が付けないのではと思っています。たとえば、美しいホテルをみるために外来種への対応が必要となれば、家族で対応に参加するなど、参加する意義の明確化があるといいと思います。
- ・外来種の生物がこれ以上増えない等に駆除する方法を考え、実際に県民も参加して活動できたらいいなと思います。
- ・まずはどの生物が外来種などか分からないことも多く、対策の前に生物多様性の事を周知する必要があるのではないかと考える。
- ・自然の共生をうたっているのに、リーフレットとかを作成するというのが選択肢にあがるのはいかがなんでしょう。行政は無駄にパンフレットやリーフレットを作りすぎです。誰も読まないし、無駄なお金です。もっと知らせたいなら、今は SNS 等お金をかけずにお知らせする方法はいくらでもあります。
- ・地域・子供たちを巻き込みながら、外来種の駆除活動へのサポートを行政が後押しして欲しい。

- ・生態系を壊さない生き方をするように、一人ひとりが、考えて行動するように、登山、ハイキング 海では、募金を募って、自覚を促して欲しいです。どんどん自然が失われていきます。こうしたらこうなると言うプロセスを広めて行けたらと思います。
- ・それぞれの地域に暮らす人々が、自分の住む地域の環境やその変化をもっと知ったほうが良いと思う。昔はどうだったか、それに比べて今はどうか、さらにこのままほうっておくと将来はどうなるのか、まずは知らないと行動に移そうという気持ちは起こらない。
- ・温暖化、希少生物の増加、SDGS 等様々な問題を唱っているが、具体的な事をわかっている人は少数かと。酷かもしれないが、学校教育で理解させて行くことが必要。
- ・キーになるのは、子どもたちだと思います。なので、子どもたちがいかに環境に興味を持ってもらうかが重要と考えます。そのために、「自然との共生」を助けてくれるキャラクターを設けてイベントを開催し、その指導役に、高校生・大学生ボランティアを教育育成する。そんな、若者たちを核とした活動もおもしろいと思います。
- ・親子で学べるようなイベントがあると嬉しいです。あまり知識がなくこれから勉強していきたい。
- ・自然学習をもっと増やした方がいいと思う。身近に田舎的な環境がない子供は郊外などに行く機会が極端に少ないため、自然への理解が進みにくい気がする。
- ・言葉としても、意味も大事であるのは当然であるにも関わらず、人々の関心が低過ぎるのは「自然環境に触れる」ことから遠ざかり過ぎているからである。コロナ禍により更に顕著になった。アウトドアが安全であること、人は動物として自然と共生すべきであることを大人も含めてウイズコロナ時代を生きる全ての人で共通認識とすべきである。県にはそのイニシアティブを取ってもらいたい。

(有害鳥獣、ワンヘルス関係 11 件)

- ・農村では害獣による被害が年々深刻化しているとの話を聞いております。駆除に従事する人を増やすなどしてこれまで以上に駆除体制を充実させることが急務であると考えます。
- ・生物の保護、共生も大切だが、イノシシなど危険な動物など駆除すべきものの対策も考えるべき。自然とて、あるがままでは人間は生きていけない。
- ・私自身の環境ではあまり感じませんが、親戚に特産物を作っている方の話を聞くと鹿は被害に合っているやうさぎなども出てくる動物たちが野菜をダメにして売られないなど口にしていたことがありました。動物も人間も困っている状況があるということも多くの人に知ってもらい、もっと違う観点からなどの知識も募ってみてもいいのかなと思います
- ・市街地に居住しており、どれが外来種なのか知らないものが多かったです。最近、市街地でもサルやイノシシが出没するので怖いと思っています。
- ・自然も大事だが農家も大事。害獣を駆除する仕組みを頑張ってほしい。(駆除する猟師さんへの報酬を上げる、駆除する人が増えるような取り組み→猟師って面白い。趣味でも可のような広報活動。)
- ・イノシシにお米や野菜など荒らされて困っています。また鹿も庭に出てくるようになり

柑橘系の木の葉を食べられたりします。イノシシよけに柵を設置していますが穴を掘ったりしてどこからか入ってきています。あとモグラもかなり多いです。他の農業をしている方はどんな工夫や対応をしているのか聞いてみたいです。

- ・クマンバチなどが危険
- ・私の実家には枇杷の木が20本程ありますが、今年はアライグマに全ての実を食べられ収穫はできませんでした。昨年まではほとんど被害がなかったそうです。来年に向けて木の根元に金網を取り付けるとのことですが、効果の程は分かりません。鹿、猪も現れて野菜も食べているそうです。先日テレビで猿被害のニュースを見ました。人間を襲ったとのことで、被害女性の姿を見ていずれ人間が柵の中に入る時代が来るのではと考えたりします。侵略動物を全てなくするという事は得策ではありません。一定数増えたら削減するという方法がいいと思います。まずは県内の実態調査から始めて、地元農家に駆除協力金を助成する方法がいいと思います。
- ・最近では都市部でもよく見かけるようになったアライグマやイノシシなどの生物に対する施策も大変ですよ。イノシシについてはジビエ料理などへの転嫁が進められていますが、その他の迷惑生物に対しては未だ有効な手立てが無いようで、今後有識者を含めて対策を構築されるよう願います。
- ・野生鳥獣（特にイノシシ）の被害は甚大だと個人的には思っていますので、野生鳥獣への対策を県で率先して取り組んでほしい。
- ・イタチ。去年も今年も近所で見かけます去年は捕獲を業者に頼み町内会費でまかないました

(ペット、犬猫関係9件)

- ・ペットについてはもっと厳しい規制をして頂きたいです。あまりにも抜け道がゆるいように感じます。
- ・問2で「生きものを最後まで責任を持って育てる」を選びましたが、うちではペットを飼っていません。それは旅行に行く時など困ることもあり責任を持って最後まで育てられる現状ではないからです。アメリカではペットショップが禁止の州があると聞きました。日本または県でも禁止にしてくれたらいいのにといつも思います。保護猫や保護犬など殺処分されてしまう動物が沢山いるのだから本当に動物が好きで買いたいのであればそちらから優先的にもらってあげて欲しいです。もし販売するにしても県営や国営とまではいきませんが、県に数か所など場所を限定し、販売の為に無理やり繁殖させたり劣悪な環境での飼育などが起こらない様にしてほしいです。
- ・地域猫について。私自身も猫を保護して一緒に暮らしていますが、知り合いに猫の保護活動をしている方がたくさんいます。ほとんどがボランティアで、保護した際の治療費や避妊去勢の手術代など自費でやられてる方が多いのですが、地域によっては自治体から助成費が出るようです。この地域格差はなんだろうかと常々疑問に思っています。それぞれの自治体ではなく、県自体、もしくは国自体がこういうボランティアでやっておられる方へしっかり助成金を出してほしいと思います。地域猫の活動のお陰で、1匹でも殺処分されない世の中へ変わっていくことを願っています。

- ・外来種のペットが途中で捨てられてそのせいで地元の自然環境が影響を受けていると聞いたことがあるので、ペットショップなどペットを飼う段階でのアプローチが重要なのかなと思いました。途中で屋外に捨てない約束で飼わせてほしいです。
- ・対馬ヤマネコの繁殖を全国の動物園でやっているように絶滅危惧種の動植物をみんなで協力して守って行ってほしい
- ・野良猫との共生をどの地域でも考えてほしい。野良猫の TNR 活動を県として促進してほしい。
- ・ペット飼育をもっと制限すべきである。
- ・外来種を駆除することは大切なことだと思うが、ペットの飼育放棄やペット販売業者等の廃棄に対する罰則を厳しくしてほしい。
- ・侵略的外来種は見かけないが、野良猫が畑をよく荒らしに来るので困っている。

(その他 13 件)

- ・自然との共生と言っても分野が広すぎて行政が関われることは逆に限られてくるのではないか。趣味でキャンプやマリンスポーツなどやってる方々は行政に言われなくても自ずとやられてたりもする。河川も自然な形ではなく(もちろん災害対策優先)、森林も森林環境税を使って手を入れている状況で、共生すべき自然とは？大前提が揺らいでいる気がする。外来種による被害は、別の事業では？
- ・近くに樋井川がありますが、みどり亀が大きくなっているのを近隣の人達から教えてもらったことがあります。他物はあまりわかりませんが、いろいろなものをアンケートをつうじて考えさせられ色々な情報を勉強しなくてはと思いました
- ・最近ではクマに人が殺傷されても、イノシシ、シカなど害獣による農作物の被害でも動物愛護が優先される傾向がある。自然との共生はまず、「人の生活が中心であるという考え」で行わなければならない。
- ・自然との共生についてそんなに考えたことはありませんでしたが、東区役所でセアカゴケグモの注意喚起の張り紙を見た時は他人事じゃないかと、ゾッとしました。また私の友人でホテルを見たことが無い人がいます。実際ホテルは年々減っているというのもあり保全や共生の必要があるのかなと思いつつも実際自分に出来る事が無くもやもやしています。
- ・姿形は違うけど同じ命なので、動物人間みんな心地よく過ごせるのが理想です。
- ・公園や建物などに自然生物と共存できるデザインを積極的に取り入れていく
- ・住居が自然の豊かな場所に恵まれてます、川や緑鳥の囀りを聞きながらベランダの鳩は嫌います、人間の勝手気儘さに呆れますがやっぱり動植物と一緒に生活するのが 1 番です。
- ・耕作放棄地をなくすための個人、行政が努力する。行政が相談窓口等を設ける
- ・外来種やペットが野生化し、共存できない世の中となり、植物や果物に対する被害が多くなっている。このままでは人間がおりの中に入生活しなければならなくなりそうで怖い
- ・自然に対する負荷が少なく済むような畜産のあり方について検討し、取り組んでいくことが必要かと思います。あるいは、大豆製の肉をはじめとした、代替肉の開発を促

すような取り組みが求められていると考えます。

- 自然との共生を考える場合、地球温暖化防止など人間の活動による自然界への影響低減策は表裏を共にするほど密接な問題ですが、これらを解決するためにはどうしてもフードマイレージや食糧自給といったボーダーレス化に逆行するような取り組みも益々重要になっています。これは外来生物の問題とも根を同じにしています。ただ単に生態系を守るだけでなく、それと共生し活用し我々自身の生活も成り立たせるためにはどうしたらいいかを真剣に考えるべき時期が到来しています。獣害駆除、ジビエなどの問題も深く関係しています。これらの問題をトータルに考える、県民、県内企業に考えさせる仕組みづくりは喫緊の課題だと思います。
- 動物の駆除、原因を作ったのは人なのに共生する道はないのだろうか？
- ゴミ出しと収集の時間を縮める。指定ゴミ袋で出されたゴミが、カラスに荒らされているのを、県内で見かけることが多々あるため。